

# 各地で新班結成中!

地域や職場で新班が誕生しています。共通しているのは、身近な仲間のおしゃべりでエンパワーメントしていること! 2つの班を紹介します。

## 会員2人を迎えて

### 病院で職場班結成!

【九州】すずらん班(文中＝仮名)

今年、2人が入会して励まし合いたい」と病院に班が誕生しました。「病院に班をつくりたい」と声をかけたのは、病院の労働組合で書記をしている会員の良子さんです。

良子さんは、人手不足の中で孤軍奮闘しながら組合でがんばっている良子さんを身近で見ました。「この病院に新婦人の班があれば悩みも話せて、連帯できる場所がつかれる。職場で堂々と集ま

する?」「すずらんにしよう」と決定。「幸福の再来」という花言葉に、産科再開への願いを込めました。3月の支部大会では、良子さんが発言しました。「昨年、沖縄のジャーナリストの方の話や、衝撃を受けました。南西諸島の

軍事化、熊本市の健康基地へのミサイル配備...。これまで世界で起った戦争がすべて身近に迫っている...。組合本部で目にしたポスター、半分が看護士、半分が従軍看護士の写真がフラッシュバックした」と。同時に、支部大会では、パッチワークなどの楽しい活動にもとりこんでいることを知って、「先輩たちの活動は、私の知らない世界を広げてくれた。産科再開を求めている署名も現職の私たちがよりたくさん集めてくれる」と話しています。

## 身近なところでおしゃべりできるのが魅力

埼玉・東松山支部松風班

班のメンバーが高齢化し、班会の会場まで遠くまで車や電車で行くのが大変と、会員をやる人が増えてきました。そこで、「近くで集まれるといいね!」と会員8人で独立し、

いきいかに話したい、毎月集まって、しんぶんタイムと簡単な挨拶、そしておしゃべりにしよう」と決めました。「次回から、おしゃべりを通して、私たちの要求を見つけていこうね」と、参加した会員の差し入れの手作り甘夏ピールをつまみながら、確認し合いました。

3月の班会のしんぶんタイムでは、春の行動のシエンダー平等の署名用紙が配られ、「シエンダー平等って、そもそもどういうことかきちんと答えられる人いる?」という声に、一瞬の沈黙。そこで、請願署名の文章を読み合わせながら、おしゃべり。「主人」ってつ



松風班で初集合! 撮影は会員のYさん

## 母の歴史

聞き書き

高知県 中内理津子のお話 (5)

幼少期、母子4人で暮らした、高知県大川村・白滝鉱山の社宅に、ナイチンゲールの伝記絵本があり、小1の時の作文に「かみこぶちゃんになる」と書きました。

中学には、徳島の伯父、叔母の家から学年ごとに違う中学校へ通いました。中学2年の正月に白滝に帰ると、兄二人も帰っていました。進路の話になり、私は夜間高校へ行って看護婦になると話すと、「並大抵じゃないんだぞ」と叱られました。兄たちは夜間高校に通った後、就職試験で苦勞し、結局、自衛隊に入るしかなかったのです。

家族に説得され、普通高を受験することに。寮のある徳島県立穴吹高校に入りました。ところが、看護婦になるためには身長150センチ、体重45kg以上の規定があることを入学してから知りました。私は142センチ、30kgを切っていたため、「卒業したら女中にもいいかな」と考えました。担任は大学進学をすすめてくれましたが、そんな自分ではありませ



長兄(右)と次兄。働き盛りのころ

## 看護婦への道

格に規定がない学校があったぞう」と呼ばれました。大阪の日本生命済生会日生病院付属の高等看護学院でした。担任は、夏休み中、学校を探してくれていたのです。受験の面接時に、体が小さいことを心配されましたが、「中学、高校と皆勤でした」と言つと、「丈夫なんだね」と院長が言ってくれ合格しました。造幣局の桜の見物から始まった学生生活、夢の始まりでした。

## 主張

5月6日から始まる原水爆禁止国民平和大行進は、自治体や地域住民の協力を得ながら被爆者とともに、毎年8月の広島と長崎をめざして歩き、今年で69回目を迎えます。

## 国民平和大行進 「憲法守れ 非核平和の日本を」の世論を

第1回目の行進があった1958年は、核戦争の危機が高まる今の状況と重なります。アメリカの世界戦略による日本の核武装化の動きに対し、「核武装に反対」「民主主義を守れ」を合言葉に行進が始まり、のべ100万人が参加して原水爆禁止世界大会を成功させました。

いま高市首相は、非核三原則の見直しまで言及し、トランプ大統領に防衛力の抜本的強化を約束。総選挙で得た多数議席を背景に憲法9条改悪、大軍拡など戦争する国への暴走を加速させています。

国である日本は核兵器廃絶の先頭に「と要請しました。こうした情勢のなか、全国各地で女性たちが「戦争止めたい」「憲法守りたい」と声をあげ、行動する場を求めています。事前に行動をSNSなどで知らせ、「いっしょに」と声をかけよう。スタンディングやグッズなど工夫してとりくみ、行進を歩くことができなくてもSNSで発信など、できる形で参加しましょう。班からの原爆展&憲法カフェや平和の2署名にとりくみ、戦争も核兵器もない世界へ世論を大きく広げましょう。